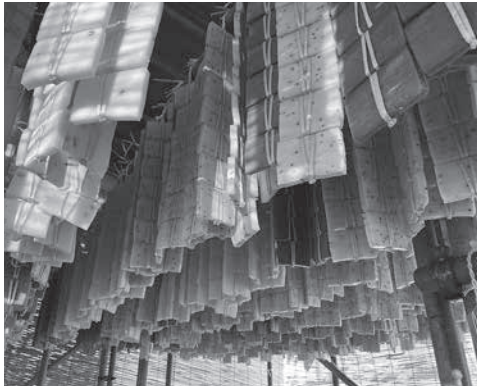


相馬自慢の干し餅

01

当JA特産販売課では、毎年行っている干し餅作りが1月6日から始まった。

この干し餅作りは毎年行っており、直売所や各支所、りんご公園、ねぶた村にも出荷している。味はカボチャやハックルベリーなど計9種類と多く、子供から大人までを楽しませている。そのうちコーヒートゴマ以外の材料は全て相馬管内で採れた野菜や果物を使っている。「今年は暖冬で仕上がりに心配していたが、無事美味しく完成しホッとした。」と従業員は述べていた。



大人気の黄色いカボチャの干し餅が並ぶ

林檎の森 仮店舗がオープン

02

去年12月30日で店舗改装の為に休業を行った直売所「林檎の森」が、1月11日から仮店舗にてオープンした。

1月7日に旧店舗から移動を開始したが、その期間中にも買物に来た方から、「いつからオープンですか。」などと尋ねられるなど、直売所が愛されていることを確認することが出来た。

「仮店舗では狭い売場の中不便お掛けしておりますが、新店舗でのリニューアルを是非楽しみにしてほしい。」と所員は語っていた。



リニューアルを大きく宣伝する仮設店舗

今年の防除暦編成参考に

03

1月15日、JA相馬村共防連令和2年防除暦編成会議が本所大会議室にて行われ、共防連加入者21名が参加した。

最初に青森県農林水産部構造政策課 担い手育成グループの川辺歩主幹から農作業事故の実態と事故事例から見る改善ポイントが説明された。事故が起きているのは大半が樹園地であり、梯子や高所作業台の安全な使い方を推進していた。また、参加者は「ヒヤリハット体験チェックシート」を記入し、今までの農作業でのヒヤリハット体験を振り返っていた。

これから行われる農作業に「焦らず、急がず、慎重に、を心掛け安全第一で作業して下さい。」と注



農作業事故の啓発に努めた川辺主幹

意を促していた。

次に蝦名農業振興課長補佐から令和元年に発生が多かったビターピットやダニについて話があった。

黒星病については、春先の好天と丁寧な薬剤防除によりほとんど発生が見られなかったが、今年度も油断せずに防除を徹底してほしいとのこと。また、ダニが孵化してから成虫になるまでのサイクルを復習し、ダニ剤を散布するタイミングなどの目安も話された。今年もしっかり予察を行い素早い対処で取り組んでいきたいとJA、共防連加入者は意気込んだ。



今年も高品質りんごの生産に気合が入る

topics

桃の剪定の知識深める

04

長野県で桃を生産している藤田清隆さんが相馬管内にて1月20日、相馬管内の桃生産者に剪定会を行った。

藤田さんは長野県のJAで指導員を経て、藤田農園を経営しており、毎年相馬管内で桃の生産者へ剪定会を開いている。参加した生産者は「この枝は切った方がいい。」「この枝は残して様子を見よう。」など藤田さんと会話しながら剪定の知識を深めていた。



桃の剪定のポイントを話す藤田さん（写真右端）

topics

わい化の剪定技術高める

05

JA相馬村わい化研究会では1月28日、見本樹剪定会を開催した。当日2班に分かれ、参加者の園地にて役員が剪定作業を行った。講師と参加者で相談し合いながら剪定し、「この場合ならどうするか。」など日頃疑問に思っていた事を解消していた。

わい化研究会の三浦均会長は「これから剪定作業に限らず農作業で困ったことがあれば、みんなで共有し解決していきたい。」と士気を高めていた。



作業の意図を伝え理解を深める

topics

ライスロマンクラブ
総会開催

06

1月29日、当JA大会議室にて第14回ライスロマンクラブ通常総会が開催された。本人出席、委任状合わせて91人が出席し原案が全て可決された。

佐藤喜久男組合長は「今年は一反歩あたり8俵と、去年に比べ2俵ほど多く収穫でき、全量一等米で終えたことは皆様の協力のおかげだと思っています。」と感謝の意を表した。

令和2年産は、安定した生産量と高品質生産を目指していく事を組合員一同意気込んだ。



佐藤組合長が令和元年度の出来秋を説明する

topics

令和2年冬期講座開催

07

農業振興課では1月30、31日と冬期講座を行った。

初日の午前中には湯口地区の成田淳逸さんを講師に迎えて剪定会が行われ、あいにくの雨にもかかわらず37名の参加者が訪れ、剪定技術を熱心に学んでいた。

2日目の午後には、農研機構が農作業事故に繋がる視野の広さを把握する、ゲーム形式のテストを参加者に行い、「難しかったがまだ安全に農業を続けることが出来ると分かって少し安心した。」と参加者は安堵の声を述べていた。



瞬時に判断を求められるゲームに集中する参加者